

教科書別採録作品の相違にみる詩教材の傾向

—高等学校「国語総合」「現代文B」を中心に—

永瀬恵子

1. 研究の目的・意義

2009（平成21）年に学習指導要領が改訂され、それを受けて国語科においても教科書が新たに発行された。高等学校においては、2013（平成25）年度から年次進行で、新しい指導要領をもとに発行された教科書「国語総合」の使用が開始されている。また、2014（平成26）年度からは「国語総合」に続き、「現代文A」「現代文B」各教科書の使用も開始された。

小・中・高の各教科書には、必ず何作品かの詩が採録されているのは周知の通りである。小・中学校で扱われる詩は教科書数が多くはないため、採録傾向はある程度把握が容易である。一方、高等学校教科書の場合は教科書数そのものが小・中学校よりも多く、その内容も多種多様であるため、詩の採録傾向を捉えようとするのは容易でない。そこで本稿では、高等学校教科書のうち共通必修科目として定められた「国語総合」と、読解力、思考力、表現力が目標に据えられた「現代文B」を取り上げ、教科書ごとに採録詩の内実を明らかにするだけでなく、「国語総合」「現代文B」の各採録詩を比較することにより、両教科書にみられる採録詩の特徴をも検討したい⁽¹⁾。

先行研究としては、後藤麻美（2006）が史料として高等学校教科書の採録詩をまとめている。後藤による調査では、1952（昭和27）年から2003（平成15）年発行「国語総合」、及び2004（平成16）年発行「現代文」に至る各教科書の採録詩を出版社、教科書、単元、作品、作者（訳者）の5項目でまとめている。また、高等学校教科書の採録詩を作家別にみるのであれば、阿武泉（2008 a）の研究があり、ここから各作家の作品別に採録年度と採録した出版社を確認することが出来る⁽²⁾。

詩の教材史研究としては、これまでに幾田伸司が綿密な調査と研究を行ってきた。幾田（2007）は、戦後高等学校検定教科書のうち、1950（昭和25）年から2005（平成17）年に至るまでの詩教材について、通時的な観点から論をまとめている。また、幾田（2014）による最新の研究では、2010年代の中学校・高等学校教科書にみられる近現代詩を、現行の学習指導要領を受けた教科書発行前後の比較を通じて、採録詩の傾向を明らかにしている。高等学校に限定すると、主に「国語総合」と「現代文」「現代文B」のそれぞれで採録数と採録率を中心に採録傾向を明らかにしており、採録率の高い詩を中心に採録傾向の特徴に考察を加えている。

以上のことを踏まえ、本稿では後藤、阿武、幾田各氏の研究に学びながら、校種を高等学校に限定した検討を行う。なお、論を進めるにあたって、最新の高等学校教科書「国語総合」「現代文B」に

採録されている詩教材の調査を、全社全種行った。この調査結果は資料としての意味合いもあることから、「国語総合」採録詩は【表2】、「現代文B」採録詩については【表3】に網羅する形でまとめている。この調査結果を一覧表で示すことは、教科書別の採録詩の傾向をより具体的に把握するための大きな手掛かりになり得る。

2. 2012（平成24）年度使用「国語総合」「現代文」における採録詩

幾田伸司（2007）は、特に1982（昭和57）年以降、中原中也、宮沢賢治の評価が高まったこと、近年に近づくにつれて戦後詩人の採録率が高くなっていることを指摘している。

教材の交代理由について、「口語詩の拡充と、主題・表現・形式などの多様化という観点でまとめることができる」としている。口語詩においては「主題面では、叙情性を中心とする作品から社会性、批判性を持った作品」へと広がっており、題材面においては「死を直接扱った作品（宮沢賢治『永訣の朝』、吉野弘『I was born』など）や肉親への愛情を扱った作品（高村光太郎『樹下の二人』など）の教材が増えている」との指摘をしている。この幾田の指摘を念頭に置いた形で教科書調査を行い、次の【表1】にまとめた。

詩教材の採録における現状から問題点を考察するにあたって、まず学習指導要領を踏まえた教科書発行前に使用されていた2012（平成24）年度使用の高等学校教科書「国語総合」「現代文」における詩の採録状況を調査した。調査を行うにあたっての調査項目は、後藤の「戦後高等学校国語教科書教材一覧」を参考にし、出版社、教科書、単元、作品、作者（訳者）の5項目とした⁽³⁾。なお、「国語総合」における10社24の教科書のうち、現代文編と古典編が分冊になっているものに関しては、現代文編のみの調査とした。

【表1】では、調査結果を踏まえ、教科書採録数が上位10名となる作者別の内訳を、左から作者名、

表1 2012（平成24）年度使用高等学校「国語総合」「現代文」の主な採録詩

	作者	合計	国語総合	現代文	作品数	最多採録詩	採録数
1	中原中也	19	15	4	4	サーカス	7
2	萩原朔太郎	17	2	15	10	竹	5
3	宮沢賢治	16	1	15	3	永訣の朝	14
4	谷川俊太郎	15	7	8	10	二十億光年の孤独	7
5	高村光太郎	14	11	3	8	道程 樹下の二人	4
6	石垣りん	13	6	7	6	表札	5
7	吉野弘	11	4	7	6	I was born	6
8	茨木のり子	8	6	2	4	わたしが一番きれいだったとき	4
9	室生犀星	8	2	6	3	小景異情	6
10	島崎藤村	6	1	5	1	小諸なる古城のほとり	6

合計数、「国語総合」の採録数、「現代文」の採録数、「国語総合」「現代文」を合わせた作品数、作品のうち最多の採録数となっている作品名とその採録数、という順序でまとめた。

【表1】をみると、教科書の種別を問わない採録数のなかで、上位10名のうち中原中也、萩原朔太郎、宮沢賢治、高村光太郎、室生犀星、島崎藤村の6名は、戦前の作品であることから近代詩という括りで把握することが可能である。戦後詩人のうち最も採録数が多いのは4位の谷川俊太郎であり、全10名のうち女性作者は6位の石垣りん、8位の茨木のり子の2名に留まる。主な作品名をみる限りでは、先の幾田が示した作品名が引き続き見受けられる。少なくとも上位層において、主な採録作品に大幅な変化は見受けられない。

「国語総合」「現代文」の別にみると、採録数の順位は明確に異なる。主に1年生の使用が想定されている「国語総合」、2・3年生の使用が想定されている「現代文」では、採録詩とその作者に大きな違いを見受けられる点がいくつかある。主な特徴は次の3点にまとめられる。

- ① 特定の作者のある作品に採録が集中している。
- ② 特定の作者としての採録数は多いが、採録作品にはばらつきがある。
- ③ 「国語総合」と「現代文」によって、採録作品・採録数に大きな違いがある。

①においては、室生犀星「小景異情」、三好達治「甞のうへ」、島崎藤村「小諸なる古城のほとり」などの近代詩が顕著である。各作者の代表作としての採録、あるいは近代詩における定番教材としての採録などとみなすことが可能であろう。この傾向は現代詩や戦後詩に近づくにつれ、採録作者と採録作品にばらつきが見受けられることから明らかである。また、宮沢賢治の採録詩は「永訣の朝」だけであるが、採録数は他と比べて圧倒的に多い。宮沢賢治は詩人としての評価もあるが、童話作家としてもよく知られており、「永訣の朝」という作品の特異性を垣間見ることが出来る。

②は、特に戦後詩においてその傾向が強い。谷川俊太郎、吉野弘、石垣りん、茨木のり子などは作者としての評価が安定しており、一部の作品で人気の集まるものもあるが、全体では採録されている作品が多岐にわたっている。

②と③両方の特徴が見受けられるのが、高村光太郎、中原中也であった。

「国語総合」において、高村光太郎は7作品が10種に採録されている。また、同じく中原中也も4作品が13種に採録されている。「国語総合」と「現代文」で比較すると、採録数の差が顕著に表れているのは中原中也で、「現代文」においては3作品が3種に採録されているのみである。このことから、「国語総合」という教科書が主に高等学校1年生を対象として編纂されていることを考慮すると、高村光太郎や中原中也らの詩は高等学校入門段階で多く扱われる詩教材であると考えられる。また、採録詩にばらつきがあるということは、作者自体の評価が高いと考えることも出来るが、一方では詩に対する評価が定まっていない可能性も考えられる。反対に、宮沢賢治や島崎藤村は特定の作品に採録が限定される傾向にあるため、作者の評価もさることながら、詩教材としての価値そのものも非常に高いといえる。

発達段階や学習の系統性を考慮しているという点からみれば、「国語総合」と「現代文」の採録作

品に異なる傾向が生じるのは当然のこととして捉えられる。しかし、詩の採録傾向に言及してきた多くの先行研究では、校種別で年代や作者ごとに採録数が示されてきた。そのため、作者別に「なぜ採録されるのか」という言及はなされても、作品別の採録数などといった、作者以外からの観点は殆ど見落とされてきた。よって、今後、詩教材の採録傾向をより細やかに、具体的に捉えようとするのであれば、従来の年代や作者別で採録数を調査するだけでなく、作品別、出版社別などといった観点からも検討を行うようにしていく必要がある。

3. 「国語総合」「現代文B」における採録詩と教科書別の傾向

3-1. 2013（平成25）年発行「国語総合」

2013（平成25）年発行「国語総合」教科書は9社23種であり、うち詩の延べ採録数は86作品であった。次の【表2】は、延べ採録数の多い作者から順に採録詩をまとめたものである。

なお、一番上の列には教科書会社の略称を示しており、その下に丸囲みして示した数字は各社教科書の種類数である。これらを受ける形で枠内に示した数字は、種類別を除いた教科書会社ごとの詩教材採録数にあたる。

【表2】から明らかなように、作者別での採録数は、多い方から順に中原中也（16）、三好達治（11）、吉野弘（10）、茨木のり子（9）と続く。最も採録数の多い中原中也の場合は、なかでも「サーカス」の採録数が最も多い。「サーカス」を採録していない場合は、「一つメルヘン」「汚れつちまつた悲しみに…」の採録がみられ、全教科書に採録されているわけではないものの、出版社別にみると採録していないものは見受けられないことから、出版社を問わない採録傾向にあるといえる。

次に続く三好達治「鶯のうへ」は9種、吉野弘「I was born」は10種の教科書に採録されている。三好達治は「鶯のうへ」に加え「大阿蘇」など複数の詩が中学校教科書でも教材として扱われているのに対して、吉野弘は「I was born」に採録が集中するという違いが生じている。「鶯のうへ」は9社中6社で採録がみられ、残る3社のうち1社は「鶯のうへ」の代わりに「雪」を採録している。さらに、採録作品に特定の傾向は見受けられないものの、茨木のり子（9）が女性作者のうちで最も採録数が多く、次点で高村光太郎（8）の採録数が多いという状況が確認出来た。

作者ではなく作品別にみても、多い順に吉野弘「I was born」（10）、三好達治「鶯のうへ」（9）、中原中也「サーカス」（8）、谷川俊太郎「二十億光年の孤独」（6）と続く。作者別にみた場合と作品別にみた場合、いずれも上位3名に違いはないが順番は入れ替わる。また、作家別にみると谷川俊太郎の採録数は6番目に多いことになるが、作品別でみると4番目に多いことになる。全体の採録数が5番目に多い高村光太郎は5作品が採録されており、うち「冬が来た」の2社を除くと出版社ごとに採録されている作品に違いが生じている。茨木のり子も高村光太郎の傾向に近く、3作品が9社中6社に採録され、特定の出版社に偏って採録されているわけではないことが分かる。

以上をまとめると、「国語総合」作者別採録数上位3名は、作者としての評価が認められる一方、作品でも詩教材として評価されているものが存在しているといえる。また、採録数4・5位にあたる

表2 2013（平成25）年度使用「国語総合」詩教材採録状況

作者	作品名	東書	三省	教育	大修	数研	明書	筑摩	第一	桐原	作品	合計
		③	③	②	③	②	②	②	④	②		
中原中也	サーカス		1	1		2	2			2	8	16
	一つのメルヘン				3				2		5	
	汚れつちまつた悲しみに…	2						1			3	
三好達治	鬘のうへ	1	1	1	2		2		2		9	11
	雪									2	2	
吉野弘	I was born	2	1			2	2		3		10	10
茨木のり子	自分の感受性くらい	1		1	2			1			5	9
	六月					2			1		3	
	わたしが一番きれいだったとき			1							1	
高村光太郎	冬が来た	1		1							2	8
	あどけない話				1						1	
	樹下の二人							1			1	
	道程								2		2	
	激動するもの									2	2	
谷川俊太郎	二十億光年の孤独	1						2	1	2	6	7
	はる				1						1	
石垣りん	空をかついで	1									1	6
	崖		2							2	4	
	シジミ		1								1	
萩原朔太郎	旅上		1								1	5
	死なない蜻		1					1			2	
	およぐひと							1			1	
	竹							1			1	
室生犀星	小景異情	1						1	1		3	3
吉原幸子	ふと						2				2	3
	喪失ではなく							1			1	
金子光晴	くらげの唄								2		2	2
草野心平	るるる葬送									2	2	2
石津ちひろ	シリウス		1								1	1
木坂涼	夏の姿	1									1	1
島崎藤村	椰子の実			1							1	1
新川和江	サフラン		1								1	1
		11	10	6	9	6	8	10	14	12	86	

茨木のり子と高村光太郎は、採録されている作品に特定のものは見受けられないが、3作品ないし5作品が出版社を問わず採録されていることから、作者として一定の評価は得ているといえる。

3-2. 2014（平成26）年発行「現代文B」採録状況

次に、2014年度より使用が開始された「現代文B」教科書における詩教材の採録傾向を明らかにする。発行された「現代文B」の教科書にみられる詩教材の延べ採録数は、9社19種の95作品であった。うち、先の【表2】と同様に作者別にて延べ採録数が多いことが確認出来たものを順に、次の【表3】にまとめた。なお、「現代文B」は高校2・3年生の2年間を通じて使用することを想定し、ほとんどの教科書で二部構成による編纂がなされているが、【表3】の作成にあたっては、二部構成による傾向の相違を【表3】には反映していない。

延べ採録数が95作品にも関わらず、【表3】から作者別で計5作品以上の採録が確認出来たのは、

表3 2014（平成26）年度使用「現代文B」詩教材採録状況

作者	作品名	東書 ②	三省 ③	教育 ②	大修 ③	数研 ①	明書 ②	筑摩 ②	第一 ②	桐原 ②	作品	合計
宮沢賢治	永訣の朝	1	3	1	2	1	2	2	2		14	14
萩原朔太郎	竹	1		1	2						4	14
	時計		1								1	
	旅情						1				1	
	こころ									1	1	
	自然の背後に隠れて居る								1		1	
	(その他)									6 ⁽⁴⁾	6	
室生犀星	小景異情			1	1		1	1	1		5	7
	蟬頃				2						2	
吉野弘	I was born	2			2			1			5	6
	祝婚歌							1			1	
島崎藤村	小諸なる古城のほとり		1	1	1			1			4	4
中原中也	汚れつちまつた悲しみに…	1	1								2	4
	サーカス							1			1	
	一つのメルヘン	1									1	
高村光太郎	樹下の二人		1	1	2						4	4
吉原幸子	パンの話		2								2	4
	ユメカサゴ		1								1	
	発車					1					1	
石垣りん	表札			1				1			2	3
	旅情							1			1	

作者	作品名	東書 ②	三省 ③	教育 ②	大修 ③	数研 ①	明書 ②	筑摩 ②	第一 ②	桐原 ②	作品	合計
茨木のり子	わたしが一番きれい だったとき						1	1			2	3
	六月				1						1	
金子光晴	湖水		1								1	2
	富士					1					1	
黒田三郎	九月の風						1				1	2
	そこにひとつの席が								1		1	
小池昌代	高度							1			1	2
	流星							1			1	
新川和江	ふうふう紙を……	1									1	2
	耳の秋		1								1	
立原道造	のちのおもひに			2							2	2
辻征夫	弟に速達で						1				1	2
	ブリキの宇宙とケット							1			1	
鮎川信夫	死んだ男		1								1	1
以倉紘平	冬の日								1		1	1
石原吉郎	夜がやってくる							1			1	1
入沢康夫	未確認飛行物体		1								1	1
和合亮一	青い空に							1			1	1
北原白秋	邪宗門秘曲							1			1	1
木原孝一	鎮魂歌				1						1	1
清岡卓行	一日の長さ	1									1	1
草野心平	日本海								1		1	1
高階杞一	食事								1		1	1
谷川俊太郎	二十億光年の孤独		1								1	1
田村隆一	帰途		1								1	1
中江俊夫	この世								1		1	1
中野重治	歌				1						1	1
中桐雅夫	足と心								1		1	1
西脇順三郎	ギリシア的抒情詩		1								1	1
長谷川龍生	ちがう人間ですよ								1		1	1
三好達治	颯のうへ	1									1	1
吉田加南子	コスモス				1						1	1
ヴェルレーヌ/ 上田敏 訳	落葉			1							1	1
		9	17	9	16	3	7	16	11	7	95	

宮沢賢治 (14), 萩原朔太郎 (10), 室生犀星 (6), 吉野弘 (6), 島崎藤村 (5) の5名とごく少数に留まった。特に「国語総合」では全く作品名を見受けられなかった宮沢賢治「永訣の朝」が9社中8社の教科書に採録されており、「現代文B」のなかでは圧倒的な数となっている。「永訣の朝」は、高等学校の詩教材のなかでも定番として、高い評価を得ているものと考えられる。また、「現代文B」の採録詩は戦前戦後を問わず多岐にわたっており、「国語総合」よりも「現代文B」のほうが各教科書の編集方針や特徴を色濃く反映しているといえる。

「国語総合」「現代文B」の採録作品を比較すると、最も採録数が多いのは吉野弘「I was born」であった。戦後詩という観点からみても、同作品の採録数が最も多い。「国語総合」では23種中10種、「現代文B」では19種中5種の採録が確認出来た。同時に「国語総合」では戦後女性作者のうち茨木のり子、石垣りんの採録が目立つ一方、「現代文B」のなかで最も合計採録数が多い女性作者は吉原幸子である。この3名は現在の高等学校教科書の詩教材において、代表的な女性作者として位置づけられる。

「国語総合」では中原中也、三好達治、高村光太郎が、「現代文B」では宮沢賢治、萩原朔太郎、室生犀星と同時代の作者で棲み分けがなされている。このことは、学年の段階を踏むうえで各作者の作品群が学年に応じる特性を持っており、その結果と結びつきの配列である可能性を示唆するものである。

なお、各教科書の新たな発行により「現代文」には見受けられなかったが「現代文B」教科書で見受けられた特徴も存在する。二部構成を主とする「現代文B」では、二部のうち一方にしか詩教材が採録されていない教科書が出てきた。このことは、【表3】の一番下に示した出版社ごとの採録数にも見て取ることが出来る。出版社によって、発行している教科書数が異なることによる差異だけではない。3社5種の教科書で詩教材の採録は第1部だけに留まり、第2部には詩教材が採録されていない代わりとして、主に短歌や俳句が採録されている。

これまでの「現代文」では、このような傾向は全く見受けられなかった。従来、詩教材と同時に短歌・俳句教材が採録されている場合の単元名は「詩歌」が多くを占め、この「詩歌」単元が二部ともに存在する形になっていた。今後、「現代文B」教科書においてどれほど現在の二部構成が続くかは定かでない。そのため、二部構成のうち片方のみで詩を採録する傾向が強まるのかも定かにはならない。教科書の編成上で学習の系統性に変化が生じたということは、詩を学習していくうえで詩教材をどのように扱うことが可能かという、教材価値そのものの問題にも関連してくるのではないだろうか。

4. まとめと今後の課題

本稿では、高等学校教科書「国語総合」「現代文B」における詩教材の採録傾向を、両教科書を比較しつつ検討を行った。今後は、本稿では言及出来なかった小・中学校の教科書採録詩との関連性や、教材別にみる指導方法の検討を深めていきたい。さらには、詩教材を国語科カリキュラムのなかに、

どのように位置づけ得るのかについても、より考察を深めていく必要がある。

注(1) 「現代文 A」は本稿の趣旨とは異なるため、調査対象から除外した。

(2) 阿武泉（2008b）は、小・中学校の採録作品に関してもまとめている。

(3) 本稿では掲載しきれない分量であるため、一覧として示すことはしていない。

(4) 桐原書店の「現代文 B」教科書は2種ともに萩原朔太郎の「天景」「猫」「死なない蛸」を合わせて採録している。

【引用・参考文献】

阿武泉（2008a）『読んでおきたい名著案内 教科書掲載作品 13000』日外アソシエーツ

阿武泉（2008b）『読んでおきたい名著案内 教科書掲載作品 小・中学校編』日外アソシエーツ

幾田伸司（2007）「戦後高等学校国語教科書における詩教材の変遷」『鳴門教育大学学校教育学会誌』22, pp. 5-10, 鳴門教育大学学校教育学会

幾田伸司（2014）「国語教科書の中の近現代詩 一二〇一〇年代の中高校教科書の場合」『日本語学』33 (2), pp. 24-34, 明治書院

後藤麻美（2006）「戦後高等学校国語教科書詩教材一覧」『国語教育史研究』6, pp. 59-94, 国語教育史学会